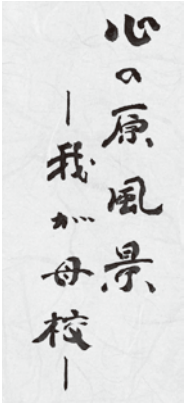


佐渡市立両尾小学校

当校は、明治35年に両尾尋常小学校として創立。昭和48年に大川分校を統合し、来年度は創立110周年を迎えます。

今年度は、4月に1年生5名を迎え、児童数は全校で38名、職員数は11名。家族的な温かな雰囲気の中で日々の教育活動が営まれています。

校舎は両尾富士と呼ばれる宇賀神山の山裾にあり、眼前には県道佐渡一周線を隔てて海原が広がっています。海と山に囲まれた自然豊かな環境の中で、子どもたちは元気にのびのびと育っています。

校舎のシンボルは、道路側の高さ6～7メートルの壁面に設置されている鬼太鼓の巨大なレリーフです。鬼太鼓は、4月の両尾・大川地区の祭礼で100年余り続けられてきた神事です。この地域の伝統芸能である鬼太鼓を学び、受け継ごうと、学校では「子ども鬼太鼓」の活動に取り組んでいます。

運動会で披露した鬼太鼓

運動会での発表に向けて、業間の「おんでこタイム」などの時間に、高学年が低学年に教えながら踊りを練習。毎年運動会では、素晴らしい踊りが披露されています。「子ども鬼太鼓」は8月の両津七夕川開きでも発表し、地域の伝統文化を多くの皆さんに見ていただく貴重な機会となっています。

総合的な学習や生活科では、地域の豊かな自然をテーマに、学習を展開しています。

総合学習で両尾の海を調べる

特に青く美しい両尾の海の生き物や環境について、各自が課題を設定し、追求活動に取り組んでいます。文化祭や学年末の学習発表会では、各学年で調べたことをまとめ、保護者や地域の方々に発表しています。

これからも家庭や地域の皆様の協力を得ながら教育活動を進め、地域の文化や自然を大切にする両尾っ子を育てていきます。

◆教育委員会学校教育課（両津支所内）☎23―4898

ジオパーク、推進日記 ②

「大地のしわ」でできた佐渡

佐渡は「島」と呼ぶには、とても奇妙な形をしています。アルファベットの「S」のような形、稲妻のような形、いろいろな形にたとえられると思います。

なぜこのような形になったのでしょうか。答えは私たちが立っている地面の下にありました。

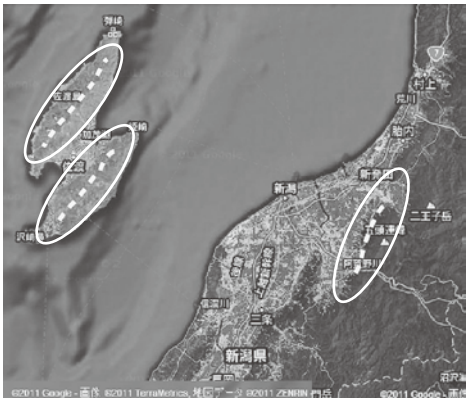
佐渡島は東と西から挟まれるようにして押されたことによってこのような形になりました。この「押す力」は、地面の下にある「プレート」が動くことによって発生します。東日本大震災を引き起こした大地震もこのプレートの動きが原因です。

プレートを一枚のハンカチにたとえて考えてみましょう。ハンカチを机の上に広げます。このときはまだハンカチに「しわ」は寄っていません。では、ハンカチを両側から押してみましょう。真ん中にたくさん「しわ」ができたはずです。佐渡もこの「しわ」と同じようにしてできたのです。

図1は、新潟県と佐渡にある山脈を示しています。山の並んでいる方向がすべて同じだということがよくわかります。

この方向が、まさに佐渡が東西から押された証拠になります。約300万年かけて押され続けた結果、「大地のしわ」として佐渡島が作られたのです。

★ジオパーク推進室では、地域へ説明に伺います。ジオパークとは何か？ジオパークを通しての地域活性化など、意見交換を行いませんか。ご希望の集落・団体は、ジオパーク推進室までご連絡ください。



©2011 Google-画像 ©2011 TerraMetrics,地図データ ©2011 ZENRIN
図1：佐渡と新潟の山脈の方向

◆教育委員会社会教育課　ジオパーク推進室（両津郷土博物館内）☎23―2100